

# 2025年12月期 決算説明会

片倉工業株式会社

(コード：3001 東証スタンダード)

2026年2月27日

# 目次

## 1. 2025年12月期 決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別実績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

設備投資額・減価償却費・研究開発費

## 2. 2026年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別予想

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

## 3. 今後の重点施策について

不動産事業について

医薬品事業について

機械関連事業について

繊維事業について

M&Aを通じた成長への取り組み

## 4. 基盤となる体制整備

人的資本

## 5. 株主還元について

# 1. 2025年12月期 決算概要

# 連結損益計算書

2025.12 決算説明会

(単位：百万円)	2025実績	2024実績	前期増減	2025予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	<b>40,652</b>	39,424	1,228	40,700	▲ 48
営業利益	<b>5,855</b>	4,124	1,731	5,000	855
営業利益率	<b>14.4%</b>	10.5%	3.9pt	12.3%	2.1pt
経常利益	<b>7,217</b>	5,483	1,734	6,000	1,217
特別利益	<b>1,390</b>	2,930	▲ 1,540	—	—
特別損失	-	1,016	▲ 1,016	—	—
法人税等	<b>2,793</b>	3,653	▲ 860	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>5,763</b>	3,524	2,239	4,900	863

## ■ 前期対比

### 【売上高・営業利益】

- ・増収・増益（詳細は次ページ）

### 【特別利益】

- ・固定資産売却益 +1,164M（前期88M→当期1,253M）
- ・投資有価証券売却益 △2,704M（前期2,842M→当期137M）

### 【特別損失】

- ・割増退職金 △774M（前期774M）

## ■ 予想対比

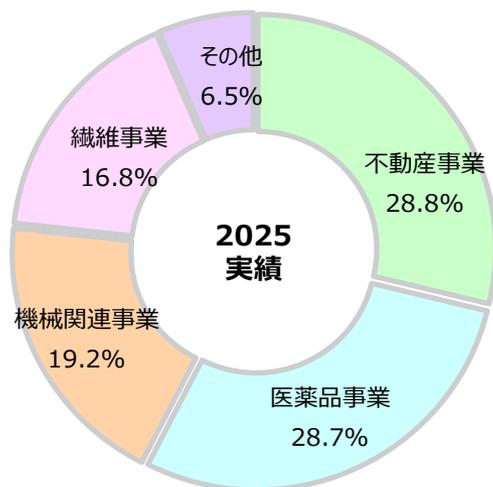
- ・売上高は、繊維事業およびその他において減収。
- ・営業利益は、不動産事業における修繕費減少等により増益。

## 連結損益計算書／セグメント別実績

2025.12 決算説明会

(単位：百万円)	2025実績		2024実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	11,699	4,395	11,139	4,269	① 560	126
医薬品事業	11,681	957	12,403	208	② ▲ 722	749
機械関連事業	7,819	771	6,147	88	③ 1,672	683
繊維事業	6,818	731	6,981	652	④ ▲ 163	79
その他	2,633	49	2,751	119	⑤ ▲ 118	▲ 70
調整額	-	▲ 1,051	-	▲ 1,214	-	163
合計	40,652	5,855	39,424	4,124	1,228	1,731

セグメント別売上高構成比



## ①：不動産で増収・増益

- ・ ショッピングセンター「コクーンシティ」におけるテナントからの賃料収入の増加等により増収・増益

## ②：医薬品で減収・増益

- ・ 2024年2月に発売した「ペブリジル塩酸塩錠」が売上に寄与したものの、薬価改定の影響により減収
- ・ 希望退職者の募集に伴う労務費等の固定費減少により増益

## ③：機械関連で増収・増益

- ・ 車載用半導体不足等の影響で遅延していたシャシ(※)の納入が回復傾向にあり、過年度の受注繰越分の販売が進んだことにより増収・増益
- ※自動車エンジンのシャシフレーム等走行に係る基本部分（車体）をいう

## ④：繊維で減収・増益

- ・ (株)ニチビで耐熱性繊維等の販売が堅調に推移したものの、オグランジャパン(株)で機能性インナーの販売減等により減収
- ・ 減収も、固定費の減少等により増益

## ⑤：その他で減収・減益

- ・ 印刷紙器及び訪花昆虫の販売減等により減収・減益

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2025.12	2024.12	前期増減
	A	B	A-B
流動資産	<b>58,526</b>	58,437	89
固定資産	<b>94,523</b>	82,348	12,175
有形固定資産	<b>41,420</b>	41,162	258
無形固定資産	<b>512</b>	566	▲ 54
投資その他の資産	<b>52,590</b>	40,619	11,971
投資有価証券	<b>43,321</b>	32,887	10,434
資産合計	<b>153,049</b>	140,786	12,263
負債合計	<b>53,287</b>	51,054	2,233
未払法人税等	<b>1,235</b>	2,887	▲ 1,652
借入金	<b>7,679</b>	9,752	▲ 2,073
繰延税金負債	<b>15,538</b>	11,160	4,378
純資産合計	<b>99,761</b>	89,731	10,030
資本剰余金	<b>16,545</b>	15,000	1,545
利益剰余金	<b>59,307</b>	55,166	4,141
自己株式	<b>▲ 5,846</b>	▲ 4,463	▲ 1,383
その他有価証券評価差額金	<b>22,027</b>	15,342	6,685
非支配株主持分	<b>2,115</b>	3,693	▲ 1,578
負債・純資産合計	<b>153,049</b>	140,786	12,263

• 投資有価証券の時価上昇影響

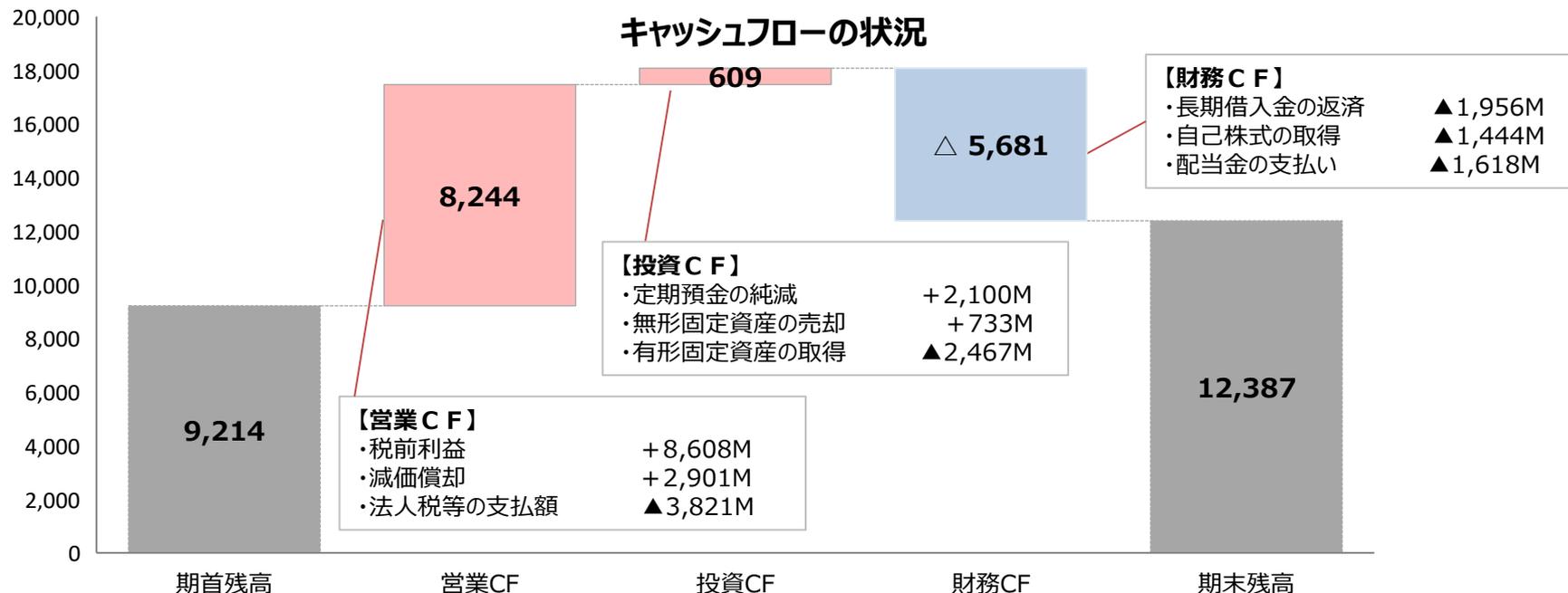
• 子会社株式の追加取得による増減

## 連結キャッシュフロー計算書

2025.12 決算説明会

(単位：百万円)		2025実績	2024実績
現金及び現金同等物の期首残高		9,214	10,837
営業活動によるキャッシュ・フロー		8,244	5,643
投資活動によるキャッシュ・フロー		609	▲ 1,194
財務活動によるキャッシュ・フロー		▲ 5,681	▲ 6,266
現金及び現金同等物の増減額		3,172	▲ 1,817
その他 (※)		—	194
現金及び現金同等物の期末残高		12,387	9,214

(※)：連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額



## 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2025.12 決算説明会

(単位：百万円)		2025実績	2024実績	前期増減
		A	B	A-B
	不動産事業	940	705	235
	医薬品事業	876	414	462
	繊維事業	608	842	▲ 234
	その他のセグメント	570	221	349
設備投資額		2,994	2,182	812

	不動産事業	1,476	1,456	20
	医薬品事業	866	769	97
	その他のセグメント	559	597	▲ 38
減価償却費		2,901	2,822	79

	医薬品事業	1,531	2,039	▲ 508
	その他のセグメント	105	100	5
研究開発費		1,636	2,139	▲ 503

## 2. 2026年12月期 通期業績予想

## 連結損益計算書／通期予想

2025.12 決算説明会

(単位：百万円)	2026年予想	2025年実績	前期増減
	A	B	A-B
売上高	<b>41,100</b>	40,652	448
営業利益	<b>5,500</b>	5,855	▲ 355
営業利益率	<b>13.4%</b>	14.4%	▲ 1.0pt
経常利益	<b>6,900</b>	7,217	▲ 317
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>5,200</b>	5,763	▲ 563

## 【売上高・営業利益】

- 増収・減益の見通し（各セグメントの詳細は次ページ）

## 連結損益計算書／セグメント別予想

2025.12 決算説明会

(単位：百万円)	2026年予想		2025年実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	12,000	4,500	11,699	4,395	① 301	105
医薬品事業	12,000	900	11,681	957	② 319	▲ 57
機械関連事業	7,100	500	7,819	771	③ ▲ 719	▲ 271
繊維事業	7,100	700	6,818	731	④ 282	▲ 31
その他	2,900	100	2,633	49	267	51
調整額	—	▲ 1,200	—	▲ 1,051	—	▲ 149
合計	41,100	5,500	40,652	5,855	448	▲ 355

- ①：不動産では、コクーンシティでの積極的なりニューアルに伴う賃料増により、増収・増益を見込む。
- ②：医薬品では、薬価改定に伴う売価下落の影響はあるものの、新製品の寄与もあり売上は増収を見込む。一方、原材料費の上昇や安定供給に向けた設備投資等の影響により、減益を見込む。
- ③：機械関連では、シャシのモデルチェンジ影響等による生産・販売時期の期ずれにより減収・減益を見込む。
- ④：繊維では、(株)ニチビにおける機能性繊維の売上伸長等およびオグランジャパン(株)のベーシックインナーの堅調推移により増収を見込む。一方、生産能力増強のための設備投資に伴う償却負担増等の影響により、減益を見込む。

➡各セグメントの詳細は、P12ページ以降の「今後の重点施策について」に記載

## 設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

2025.12 決算説明会

(単位：百万円)		2026年予想	2025年実績	前期増減
		A	B	A-B
	不動産事業	2,042	940	1,102
	医薬品事業	1,068	876	192
	繊維事業	668	608	60
	その他のセグメント	406	570	▲ 164
設備投資額		4,184	2,994	1,190

	不動産事業	1,479	1,476	3
	医薬品事業	784	866	▲ 82
	その他のセグメント	691	559	132
減価償却費		2,954	2,901	53

	医薬品事業	1,556	1,531	25
	その他のセグメント	141	105	36
研究開発費		1,697	1,636	61

### 3. 今後の重点施策について

## 不動産事業について

2025.12 決算説明会

### ■ 26年度の見通しについて

積極的なリニューアル等により、増収・増益を継続

#### ◆コクーンシティ

- ・テナント入替や契約更改による賃料増により、増収を見込む
- ・さいたまスーパーアリーナ休業も、館内施策の強化等により全体として増収基調を確保
- ・固定資産税やリース原価等のコスト増は継続も、増収効果により吸収
- ・施設の魅力および鮮度維持向上に必要な投資を継続

#### ◆地方物件

- ・旧加須工場の土地賃貸（25年7月賃貸開始）が通年寄与
- ・戦略的な再投資に加え、経年老朽化や自然災害への対応を着実に実施



テナント入替や館内環境整備による施設鮮度向上  
(コクーンシティ)

### ■ 今後の取り組みについて

#### ◆コクーンシティおよび周辺エリア

- ・エリア価値向上に向けた開発計画の推進  
「(仮称)さいたま市大宮区天沼町2丁目計画」(総戸数111戸の賃貸マンション)は26年1月に着工、27年10月に入居開始予定

#### ◆その他不動産

- ・計画的な設備投資による資産価値の維持・収益安定化
- ・新規取得は継続検討、建築費・金利動向を踏まえ慎重に判断



## 医薬品事業について

### ■ 26年度の見通しについて

**売上は前期並みを確保も、薬価改定影響および原材料費上昇等のコスト増により減益**

- ◆ 薬価改定による単価下落は継続するものの、新製品の売上寄与および後発品のシェア拡大により売上は前期並みを確保
- ◆ 薬価改定による粗利益率低下に加え、原材料費上昇および設備更新に伴う償却負担増により減益

### ■ 今後の取り組みについて

- ◆ 主力製品の販売強化
  - 「トルバプタン3.75mg錠」(心不全治療薬) [25年12月発売]
  - 「ベプリジル錠」(不整脈・狭心症治療薬) [24年2月発売]
- ◆ 販売提携による販売チャネルの拡大
  - 「エルトロンボパグ錠」(血小板減少症治療薬) [26年6月発売予定]
- ◆ 他社との共同開発推進によるジェネリック開発パイプラインの拡充
- ◆ 海外展開への取り組み
  - 「ビソノ®テープ」(経皮吸収型・β1遮断剤) の中国展開



## 機械関連事業について

2025.12 決算説明会

### ■ 26年度の見通しについて

#### 減収・減益も、収益性向上策の定着により安定した利益水準を確保

- ◆ シャシのモデルチェンジの影響等による生産・販売時期の期ずれを主因として、減収減益を見込む
- ◆ 過年度からの販売価格適正化や生産効率向上の取り組み効果により、引き続き安定した利益水準を確保する見通し
- ◆ 収益基盤の改善を背景に、人材投資や基幹システム更新等、事業基盤の整備を計画的に進めるため、販売管理費は微増

### ■ 今後の取り組みについて

- ◆ 設計・製造工数の削減を中心としたコスト低減への取り組みを継続
- ◆ 販売代理店との連携による受注体制の強化
- ◆ マギルス社製車両に関する取り組みの推進
  - ・ 25年からメンテナンス等のサービス提供は開始済み
  - ・ 新規受注に向けた営業活動を進め、28年度の新車販売を見込む



## 繊維事業について

### ■ 機能性繊維事業について（株）ニチビ

#### ◆ 26年度の見通しについて

##### 耐熱性繊維は、金属製造用途・航空機用途が伸長

- ・海外向け金属製造用途は米国に加えて欧州市場でも拡大
- ・海外向け航空機用途は継続して好調、既存・新規両軸での取引拡大を推進
- ・国内向け半導体製造用途は堅調推移

##### 水溶性繊維は、米国関税影響等で足踏み

- ・自動車内装向け人工皮革用途の苦戦、高級タオル用途の在庫調整継続

#### ◆ 今後の取り組みについて

- ・海外展開に向けた営業体制整備（欧州向けに注力）
- ・新製品「アルセロン」（高性能耐熱性繊維） [2026年3月発売予定]
- ・2026年3Q以降、新焼成炉が稼働予定



アルセロン（高性能耐熱性繊維）

### ■ 実用衣料事業について（オグランジャパン株）

◆ 26年度はベーシックインナーの堅調推移により増収見込み

◆ 商品ラインナップの集約による高収益体制に向けた対応を継続しつつ、

機能性インナー（アクティブシニア向け）に注力、ECチャネル拡大のための体制を強化



※AI（Copilot）が生成したイメージ画像

## M&Aを通じた成長への取り組み

### ■ 基本的な運営方針

#### 買収企業の価値最大化に向けた取り組み

-各社の強みを活かし、当社グループの基盤・知見を通じて企業価値向上を図る

#### グループ企業としての基盤整備およびシナジー促進

-共通のルール・管理体制のもと、既存事業との連携とシナジー創出を推進

#### (株)ガーデンエクスプレス（植栽事業）

##### 事業の安定化とサービス品質向上に向けた取り組み

- ◆ 代理店拡大が進む中、サービス品質の安定化と  
1店舗あたりの生産性向上
- ◆ リピート率向上に向けた顧客接点強化施策の推進
- ◆ 法人向けの高付加価値  
サービスの拡充



※AI (ChatGPT) が生成したイメージ画像

#### (株)カタクラ・クロステクノロジー（IT事業）

##### 付加価値向上とグループ機能強化に向けた取り組み

- ◆ 人材育成を背景としたプライム案件の拡大
- ◆ グループ内システム開発を通じた技術力・ノウハウ強化
- ◆ AIを活用した  
グループ内DXの推進



※AI (ChatGPT) が生成したイメージ画像

## 4. 基盤となる体制整備

## 人的資本

当社は、年齢・性別・経歴等にかかわらず、優秀な人材を積極的に登用するとともに、すべての社員に公正な評価および管理職への登用機会を設けるという考えのもと、社内環境の整備等に努めています。

平均年齢

40.6歳

月平均残業時間

18.5時間

平均有給休暇取得日数

11.4日

### ■ 指標および2030年目標

育休取得率

男性・女性ともに

100%

100%継続

育児休業後職場復帰率

男性・女性ともに

100%

100%継続

女性社員採用割合

新卒・中途採用の直近3年実績

47%

50%以上継続

女性管理職の割合

※主任職は含まない

17.5%

30%

## 5. 株主還元について

## 株主還元（利益配分）

### <株主還元方針>

利益の配分については、安定的な配当の実施に努めるとともに、資本効率の向上等を目的として適宜機動的な自己株式取得を実施することとしております。総還元性向については、特殊要因(※)を除き、親会社株主に帰属する当期純利益の60%程度を目安として、利益還元に努めてまいります。

(※)：一時的な損失や利益計上により、当期純利益が大きく変動する場合を想定しております。

### ■ 25年度のトピックス

- ✓ 2025年12月期の期末配当を期初配当予想から**10円増配の1株当たり60円に修正**。
- ✓ 2025年5月に**650,000株(※)**、**取得総額約1,443百万円**の自己株式取得を実施。

(※) 発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合2.00%

### ■ 株主還元の実績と予想

	FY2025	FY2026(予想)	FY2024 (参考)
1株当たり配当金	60円	60円	50円
配当総額	1,908百万円	—	1,623百万円
自己株式取得額	1,443百万円	(注1)	1,301百万円
総還元性向	(注2) 76.7%	—	83.0%

(注1)適宜検討を実施。

(注2)一時的な損失や利益計上による特殊要因を除く。